



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場会社名 21LADY株式会社 上場取引所名
 コード番号 3346 URL http://www.21lady.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 道子
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)北川 善裕 (TEL)03(3556)2121
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	2,253	8.5	△19	—	△17	—	△26	—
24年3月期第3四半期	2,076	△10.7	△125	—	△129	—	△137	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 △28百万円(—%) 24年3月期第3四半期 △148百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
25年3月期第3四半期	円 銭 △689 18	円 銭 —
24年3月期第3四半期	△3,511 55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
25年3月期第3四半期	百万円 1,048	百万円 44	% 4.2
24年3月期	990	79	7.2

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 44百万円 24年3月期 71百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
24年3月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 0 00
25年3月期	—	0 00	—		
25年3月期(予想)				0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,200	17.6	35	—	29	—	15	—	383 39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 1 社(社名)雷門TP株式会社

(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	43,947株	24年3月期	43,947株
25年3月期3Q	4,985株	24年3月期	4,985株
25年3月期3Q	38,962株	24年3月期3Q	39,179株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連事業等から国内需要が堅調に推移するもとで緩やかな回復基調にあったものの、欧州の債務問題や中国経済の成長鈍化等の影響もあり、依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループは、ヒロタ、イルムス両事業におきまして、引き続き選択と集中による既存直営店強化を中心に、新商品の投入を含めた商品構成の見直し、人財教育による販売力強化及び経営改善計画の達成を目指し取り組んでまいりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

ヒロタ事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、定番のオリジナルシュークリームと直営店を中心に販売するプレミアムシュークリームを、10月にパンプキン、11月にオロビアンコ社とのコラボによる新商品イタリアンマロングラッセ、12月にロイヤルミルクティーを投入し、プレミアムシュークリームの認知度を高めることができました。また、直営店舗の運営につきましては、重点商品のボリューム陳列の強化に注力し、従来の店舗イメージを刷新するとともに全社一丸となって売上拡大を目指した結果、前年売上を大幅に超える店舗が誕生し、直営店の売上獲得に大幅に寄与することができました。

ホールセール部門におきましては、主に関西圏を中心としたチェーンストアとの取引拡大を実現いたしました。この結果、ホールセール部門の売上は大幅に伸長いたしました。

生産部門におきましては、効率的な生産体制を維持するために日々努力しております。

なお、当第3四半期連結累計期間末の直営店舗数は38店舗となりました。

この結果、売上高は1,459,853千円（前年同四半期比14.3%増）、営業利益48,874千円（前年同四半期は34,839千円の営業損失）となりました。

イルムス事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、新規直営店2店舗のオープンにより店舗の売上高、利益高拡大の基盤を作ると共に、既存直営店舗と併せ、引き続き新規顧客拡大、利益構造の改善、接客サービスの改善に努めてまいりました。店舗の新店効果もあり売上高は改善がみられ、原価率の低減努力から店舗の粗利益高は前年同四半期比3.1%増となりました。更に新規出店による費用の増加に対応するため、既存費用の抑制を図りました。

なお、当第3四半期連結累計期間末の直営店舗数は10店舗となりました。

この結果、売上高は793,215千円（前年同四半期比0.7%減）、営業損失は27,063千円（前年同四半期は35,742千円の営業損失）となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高2,253,068千円（前年同四半期比8.5%増）、営業損失19,290千円（前年同四半期125,296千円の営業損失）、経常損失17,482千円（前年同四半期129,296千円の経常損失）、四半期純損失は、26,852千円（前年同四半期137,578千円の四半期純損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末に比べ57,873千円増加し、1,048,000千円となりました。これは、流動資産が40,779千円、固定資産が17,094千円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ92,681千円増加し、1,003,531千円となりました。これは主に、固定負債において長期借入金が24,335千円減少したものの、流動負債において買掛金が80,049千円、未払金が23,380千円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ34,807千円減少し、44,469千円となりました。これは主に、株主資本において利益剰余金が26,852千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年5月11日発表の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年9月30日付で当社を存続会社とし、雷門TP株式会社を消滅会社とする吸収合併を行ったため、同社については連結の範囲から除いております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において売上高2,253,068千円、営業損失19,290千円を計上しておりますが、ヒロタ、イルムス両事業において経営改善計画を推進した結果、前年同四半期連結累計期間と比較して営業損失が106,005千円改善しております。

当社グループは、更なる改善を図るために以下の施策について全力を挙げて取り組んでおります。

ヒロタ事業におきましては、店舗の活性化と店舗運営の一層の強化を図る為、店舗責任者並びにサブ責任者の育成を充実させるとともに、全社一丸となって連携を更に強めてまいります。また、今後の新規出店におきましては、教育の充実を図り常時お客様へのおもてなしの気持ちを込めた接客により、来客数のアップを目指し、お客様満足度の更なる向上に努めます。

ホールセール部門におきましても、引き続き既存取引先様での定番商品化による売上拡大と新規取引先の開拓を重点的に進めてまいります。また、新たな商品を随時投入することにより、売上の更なる拡大を目指します。

イルムス事業におきましては、9月後半に大阪府八尾市の八尾西武百貨店内、10月後半に大阪市の梅田阪急百貨店内に新規店舗をオープンさせました。これにより大阪は3店体制となり、今後は認知度向上、新規顧客拡大を一層進め、既存店舗は引き続き「接客サービスの向上」と共に、競合他社との差別化を図り、新規顧客拡大、既存顧客のリピート率の向上による売上高拡大、利益構造の改善に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	169,920	99,068
売掛金	209,472	301,191
商品及び製品	118,402	131,075
仕掛品	1,347	2,669
原材料及び貯蔵品	24,462	30,995
その他	15,826	16,572
貸倒引当金	△2,600	△3,960
流動資産合計	536,832	577,611
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	185,699	183,884
土地	79,937	79,937
その他	83,657	76,840
有形固定資産合計	349,294	340,661
無形固定資産		
のれん	2,756	6,096
その他	6,241	36,518
無形固定資産合計	8,998	42,614
投資その他の資産		
投資有価証券	12,878	10,054
その他	86,473	81,042
貸倒引当金	△4,350	△3,983
投資その他の資産合計	95,001	87,112
固定資産合計	453,294	470,388
資産合計	990,127	1,048,000

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	171,744	251,793
短期借入金	44,411	39,731
1年内返済予定の長期借入金	52,976	65,080
未払法人税等	13,989	10,951
未払金	278,916	302,297
資産除去債務	600	—
その他	168,195	181,394
流動負債合計	730,833	851,248
固定負債		
長期借入金	24,335	—
長期未払金	111,669	107,634
資産除去債務	25,771	28,721
その他	18,240	15,927
固定負債合計	180,016	152,282
負債合計	910,850	1,003,531
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	493,387	493,387
利益剰余金	△415,206	△442,058
自己株式	△103,923	△103,923
株主資本合計	74,257	47,405
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,601	△2,936
その他の包括利益累計額合計	△2,601	△2,936
少数株主持分	7,621	—
純資産合計	79,277	44,469
負債純資産合計	990,127	1,048,000

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	2,076,292	2,253,068
売上原価	1,048,820	1,077,133
売上総利益	1,027,471	1,175,935
販売費及び一般管理費	1,152,768	1,195,225
営業損失(△)	△125,296	△19,290
営業外収益		
受取利息	10	17
受取配当金	595	70
負ののれん償却額	852	—
違約金収入	—	4,500
貸倒引当金戻入額	750	450
その他	403	902
営業外収益合計	2,611	5,940
営業外費用		
支払利息	6,289	4,126
その他	322	5
営業外費用合計	6,612	4,131
経常損失(△)	△129,296	△17,482
特別利益		
投資有価証券売却益	1,749	379
固定資産売却益	257	—
特別利益合計	2,007	379
特別損失		
災害による損失	769	—
固定資産除却損	—	360
減損損失	2,854	—
その他	681	—
特別損失合計	4,306	360
税金等調整前四半期純損失(△)	△131,595	△17,463
法人税、住民税及び事業税	10,106	10,094
法人税等調整額	2,494	914
法人税等合計	12,600	11,009
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△144,196	△28,472
少数株主損失(△)	△6,617	△1,620
四半期純損失(△)	△137,578	△26,852

四半期連結包括利益計算書
第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△144, 196	△28, 472
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4, 408	△334
その他の包括利益合計	△4, 408	△334
四半期包括利益	△148, 604	△28, 807
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△141, 987	△27, 186
少数株主に係る四半期包括利益	△6, 617	△1, 620

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,276,943	798,661	2,075,604	688	2,076,292	—	2,076,292
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,276,943	798,661	2,075,604	688	2,076,292	—	2,076,292
セグメント利益又は損失 (△)	△34,839	△35,742	△70,582	688	△69,894	△55,401	△125,296

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△55,401千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ヒロタ事業」において、主に店舗の閉鎖が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては2,854千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,459,853	793,215	2,253,068	—	2,253,068	—	2,253,068
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,459,853	793,215	2,253,068	—	2,253,068	—	2,253,068
セグメント利益又は損失 (△)	48,874	△27,063	21,810	—	21,810	△41,101	△19,290

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△41,101千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第 3 四半期連結会計期間において、Royal Scandinavia A/S から「イルムス」の商標権を取得しております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第 3 四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「イルムス事業」において26,886千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変更)

「イルムス事業」において、当社の子会社である株式会社イルムスジャパンの株式を平成24年11月15日付で追加取得しました。なお、当該事象によるのれんの増加額は当第 3 四半期連結会計期間において 3,799千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。